



蓮の植替え作業中 (キレイに泥を落とし、新しい土と入れ替えています。蓮の見頃は6~7月)

# 高田 本山 だより

発行所  
真宗高田派宗務院  
三重県津市一身田町2819  
電話 059-232-4171  
FAX 059-232-1414  
HP www.senjuji.or.jp



発行部数 35,000部

## つながりの社会 を目指して

宗務総長 青木 眞曉

いよいよ今春四月三日より、真宗高田派本山専修寺（津市一身田町）の御影堂において十七年に一度の法縁ほうえんとなる一光三尊佛の御開扉が行われます。親鸞聖人が朝な夕な直々に手を合わされた尊いほとけ様で、本寺専修寺（栃木県真岡市）の御本尊であります。平素は秘佛としてご安置されているこの御尊像を、平成二十六年四月から平成二十八年三月までの二年間本山へお迎えいたします。その間、お声があれば各寺院へ赴き出開帳を行い、多くの人々とご縁が結ば

れることでしょうか。人と人とのつながりが求められる現代社会の中で、一光三尊佛の御開扉の意義を見直さなければなりません。現代は生きるのが難しい時代といわれます。文明の進歩は我々に多くの利益、利便性をもたらしました。十七年前（前回の三尊佛の御開扉のとき）普及しだした携帯電話やインターネットも、いつの間にか無くてはならないものとなりましたが、その反面無縁社会・孤立社会ともいわれ、自分の存在意義を見失い、いのちの尊厳、先祖への畏敬の念が希薄になってきたのではないのでしょうか。今、求められているものは心の拠り所です。親鸞聖人は求道者であられました。観音菩薩の



化身である聖徳太子に導かれ、勢至菩薩の化身である法然上人に出会い、阿弥陀さまの御慈悲を感じられた後も、様々な群衆の中でつねに正しい道を求められました。人と人をつなぐに、親鸞聖人は何を感じられたのか、正しい道とは何か、三尊様にご縁を結ばれる一人一人に問いかけたいと思います。今回の御開扉では、宗祖親鸞聖人御直拝のほとけ様ということで、高田派だけに限らず、真宗各派への出開帳も行います。ますます多くの方が、三尊様にご縁を結んでいただくことを念願しています。



特集

# 一光三尊佛御開扉 十七年に一度のご勝縁



## まずは栃木の本寺で御開扉

平成二十六年三月二十八日、栃木県の本寺専修寺で、三日間にわたり御開扉法会が執り行われます。期間中は、ご法主の御親修・御親教をはじめ稚児練りや歴史学者今井雅晴さんによる記念講演等があります。

## 道中のご案内

四月二日の午後には本山へ御到着

三月三十一日の朝、三尊さまは一路本山へ向かわれます。この日は名古屋別院でお泊まりになり、翌一日午前八時半に名古屋別院を御出興、桑名市の常信寺、四日市市の善教寺、崇顕寺、興正寺、常超院と御小休を行い四月一日は神戸別院でお泊まりになります。翌二日は、朝九時に神戸別院を御出興、白子の青龍寺、磯山の専照寺、河芸上野の最勝寺、高田慈光院と順次御小休を行い、午後二時過ぎに高田保育園前に御到着となる予定です。この日は雨が降らなければ高田保育園前から輿行列を行い、午後三時頃に本山へ御到着となります。



栃木県本寺専修寺



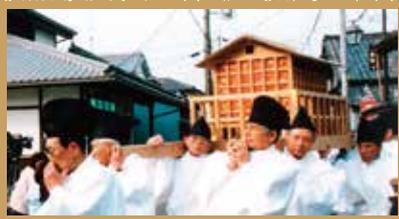
鈴鹿市  
専修寺神戸別院



高田本山専修寺



愛知県  
専修寺名古屋別院



輿行列

津 高田慈光院  
津 高田保育園

鈴鹿 最勝寺  
鈴鹿 専照寺

四日市 常超院  
四日市 興正寺  
四日市 崇顕寺  
四日市 善教寺

三重県  
桑名 常信寺

## 宝物館

一光三尊佛御開扉記念特別展観

4月3日 12時30分～15時  
4日～10日 10時～15時  
11日 10時～13時

高田本山御用達  
全国優良石材店、認定店

創業110余年

株式會社 **ISHISEN STONES 石仙**

(旧(有)山本石材店)

〒0120-67-4114

四日市市近鉄阿倉川駅前 ☎059-331-4114

お墓

寺標

墓地移転

霊園開発造成



高田本山御用達  
三重県仏教会御推薦

石碑  
記念碑  
燈籠



高級御影石専門店

**御影石材株**

(石に御用の方は)

☎0120-142540

本店 津市広明町(影見寺門前)  
☎059-224-1700(代)

本寺専修寺

3月28日(金) 一光三尊佛御開扉法会

8時 御開扉、晨朝勤行  
9時～12時 内陣参拝  
10時～11時30分

美寿々民話「もおか」「お茶所」

13時 日中勤行【法主殿御親修・御親教、復演】  
15時～15時30分 内陣参拝  
16時 夕事勤行、御閉扉

3月29日(土) 一光三尊佛御開扉法会

8時 御開扉、晨朝勤行

※お昼にかけて地元の「草庵そば」のコーナー  
ができます (有料) 場所・お茶所前

10時30分 稚児練り 歴史資料館より  
11時～12時 尊徳太鼓 「御影堂前」  
11時～12時10分 内陣参拝

13時 日中勤行【法主殿御親修・御親教、復演】  
15時～15時30分 内陣参拝  
16時 夕事勤行、御閉扉

3月30日(日) 一光三尊佛御開扉法会

8時 御開扉、勤行  
9時30分～10時20分

記念講演 今井雅晴先生(筑波大名誉教授)

10時30分～11時10分 内陣参拝  
11時～12時10分  
オカリナ、二胡、キーボード演奏

山村多恵子先生ほか

13時 日中勤行

【前法主殿御親修・御親教、復演】

16時 夕事勤行、御閉扉

※内陣参拝(有料・1,000円)は三尊さま  
を、より近くで参拝できますが参拝時間が限  
られますのでご注意ください。

3月31日(月)

8時 本寺御出興

4月2日(水)

15時 本山御到着

高田本山専修寺

4月3日(木) 一光三尊佛慶讃法会

7時 御開扉、晨朝勤行、説教

8時30分～10時 高田短期大学新入生参拝

11時 日中勤行、法主殿お言葉、説教  
12時30分～13時 大講堂説教「大講堂」  
13時30分～15時

特別講演 高田派鑑学 新光晴師

15時 中陣通り参拝  
15時30分 夕事勤行、御閉扉

4月4日(金) 一光三尊佛慶讃法会

7時 御開扉、晨朝勤行、説教

9時 尊前臨時読経

10時 稚児練り「寺内町」

11時 日中勤行、法主殿お言葉、説教  
12時30分～13時 大講堂説教「大講堂」  
13時30分～15時

特別講演

愛知専門尼僧堂堂長 青山俊董師

15時 中陣通り参拝

15時30分 夕事勤行、御閉扉

4月5日(土) 一光三尊佛慶讃法会

7時 御開扉、晨朝勤行、説教

9時 尊前臨時読経

10時 稚児練り「寺内町」

11時 日中勤行、法主殿お言葉、説教  
12時30分～13時 大講堂説教「大講堂」  
13時30分～15時

特別講演 善光寺寺務総長 若麻績敏隆師

15時 中陣通り参拝  
15時30分 夕事勤行、御閉扉

4月6日(日) 千部法会

7時 御開扉、晨朝勤行、説教

9時 尊前臨時読経

11時30分 日中勤行、説教

説教終了～12時45分 中陣通り参拝  
13時 尊前臨時読経  
15時30分 夕事勤行、御閉扉

4月7日(月) 千部法会

7時 御開扉、晨朝勤行、説教

9時 尊前臨時読経

11時30分 日中勤行、説教

説教終了～12時45分 中陣通り参拝  
13時 尊前臨時読経  
15時30分 夕事勤行、御閉扉

4月8日(火) 千部法会・釈迦三尊佛法会

7時 御開扉、晨朝勤行、説教

9時 尊前臨時読経

11時30分 日中勤行、説教

説教終了～12時45分 中陣通り参拝  
13時 尊前臨時読経  
15時30分 夕事勤行、御閉扉

4月9日(水) 十万人講法会・千部法会

7時 御開扉、晨朝勤行、説教

9時～10時20分 高田学苑参拝

10時30分 尊前臨時読経

11時30分 日中勤行、説教

説教終了～12時45分 中陣通り参拝

13時 尊前臨時読経

13時30分～14時50分 高田学苑参拝

15時30分 夕事勤行、御閉扉

4月10日(木) 十万人講法会・千部法会

7時 御開扉、晨朝勤行、説教

9時～10時20分 高田学苑参拝

10時30分 尊前臨時読経

11時30分 日中勤行、説教

説教終了～12時45分 中陣通り参拝

13時 尊前臨時読経

13時30分～14時50分 高田学苑参拝

15時30分 夕事勤行、御閉扉

4月11日(金) 戦没者追弔法会・千部法会

7時 御開扉、晨朝勤行、説教

9時～10時20分 高田学苑参拝

10時30分 尊前臨時読経

11時30分 日中勤行、説教

12時30分 夕事勤行

13時～14時 御内拝、御閉扉

※尊前臨時読経の

お申し込みは

8頁をご覧ください。



一光三尊佛御開扉期間説教

3日(木)	晨朝	鈴鹿市	西方寺	住職	少僧都	三栗家篤証	「弥陀の大慈悲」
	日中	岡崎市	浄泉寺	前住職	権大僧都	戸田信行	「同体の大悲」
	大講堂	津市	大円寺	住職	律師	井東信道	「親鸞聖人と三尊佛」
4日(金)	晨朝	豊橋市	正太寺	住職	律師	大河戸悟道	「ふたつの願い」
	日中	大野市	専福寺	住職	権中僧都	金森顕宏	「智慧と慈悲のうなぎき」
	大講堂	津市	慈光寺	住職	権大僧都	藤山眞哉	「三尊様をお迎えして」
5日(土)	晨朝	四日市市	法泉寺	住職	大律師	佐藤光達	「秘仏としてのお姿から聞こえてくるもの」
	日中	鈴鹿市	壽福院	住職	権大僧都	眞岡慶光	「一光三尊佛を仰いで」
	大講堂	松阪市	法性寺	住職	中僧都	眞置和徳	「弥陀の本願信ずべし」
6日(日)	晨朝	津市	真楽寺	衆徒	権少僧都	鷲山了悟	「菩薩とは」
	日中	田原市	西光寺	前住職	中僧都	都築堯寛	「専修念仏に生きるよろこび」
7日(月)	晨朝	鈴鹿市	欣念寺	住職	権中僧都	田中明誠	「遇わせてもらう」
	日中	鈴鹿市	青蓮寺	住職	権大僧都	廣田隆學	「本願力にあう」
8日(火)	晨朝	四日市市	浄福寺	衆徒	律師	隆妙瀧	「生死のうみにうかびつつ」
	日中	岡崎市	浄泉寺	住職	権中僧都	戸田恵信	「本当の依り処」
9日(水)	晨朝	津市	最勝寺	住職	少僧都	長谷部行雄	「観音勢至もろともに」
	日中	明和町	迎接寺	住職	少僧都	花山光瑞	「何を拝むのか」
10日(木)	晨朝	四日市市	光輪寺	住職	権中僧都	中村宜成	「光とともに」
	日中	大阪市	聖賢寺	住職	権中僧都	島義厚	「聖人の背負われた如来さま」
11日(金)	晨朝	津市	善休寺	住職	少僧都	千草篤昭	「無慚無愧のこの身にて」
	日中	松阪市	法性寺	衆徒	権少僧都	眞置信海	「唯、なもあみだぶつ」

高田本山御用達

**井筒法衣店**

社長 幾田潤

京都市下京区堀川通新花屋町角 (西本願寺前)  
(〒600-8503)

TELフリーダイヤル 0120-075-720  
FAXフリーダイヤル 0120-075-490

緑と共に75年

三重県知事免許認可  
(一級造園技能士) 造園・庭園管理

**山本造園**

代表 山本進一郎

津市栗真小川町 869-77  
TEL 059-232-7453  
FAX 059-232-7453



大涅槃図

3月15日～23日まで、如来堂に高さ約5メートルの釈迦涅槃図が掛けられます。お釈迦様の説かれた仏教は私たちに何を教えて下さったのでしょうか。

### 受付場所が変わりました

二月三日より進納所は志納所と名を変えて総合案内所へ移転しました。

- ・納骨受付
- ・納骨堂仏間読経及び納骨壇前読経受付
- ・志納受付
- ・永代経（資堂講、春千部、秋法会）受付
- ・刊行物販売
- ・申物下附
- ・帰敬式受付
- ・院号及び法名下附
- ・団体参拝受付及び案内

職員一同、気持ちを新たに皆様に親しまれる高田本山を目指します。唐門から入って左手、大きな桐の紋が目印です。

総合案内所・志納所  
TEL：059-232-7234・059-236-5701  
FAX：059-232-6112・059-236-5702



### [ 高田本山境内図 ]



### これからの 本山諸法会

#### ◆ 讚佛会

三月十七日～二十三日  
晨 朝 午前七時より  
お日中 午前十一時三十分  
より  
御親教 二十日（木）

#### ◆ 一光三尊佛慶讃法会

四月三日～五日  
晨 朝 午前七時より  
お日中 午前十一時より

#### ◆ 千部法会

四月六日～十一日  
お日中 午前十一時三十分  
より  
前三日間は新加入者の法会  
となります。

#### ◆ 釈迦三尊仏法会

四月八日  
午前十時三十分より  
山門を上る階段が急なため、  
動きやすい服装でお越し下さ  
い。

#### ◆ 十万人講法会

四月九日～十日  
お日中 午前十一時三十分  
より

#### ◆ 戦没者追弔法会

四月十一日

午前十一時より太子堂へ参  
堂の行列があります。  
お日中 午前十一時三十分  
より

#### ◆ 親鸞聖人降誕会

五月二十一日  
御参廟 午前九時より  
式典 午前十時より  
（法主褒賞・本山褒賞・祖  
師寿賞・本山表彰）  
お日中 午前十一時三十分  
より

### これからの 本山諸行事

#### ◆ 興学布教研究大会

四月二十九日  
仏教の深みを求めて、高田  
派僧侶数名が日頃の研究の成  
果を発表します。  
聴講無料。どなたでもお越  
し下さい。  
午前十時より

#### ◆ 高田派婦人連合大会

六月一日  
五十回目の記念大会となり、  
高田派婦人連合会で一光三尊  
佛をお迎え致します。  
式典では九十歳を迎えられ  
た女性の祖師寿の方の表彰が  
行われます。  
午前十時開会

### 御本山御用達

## 鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）  
電話 (075)371-0854・8181～2番  
FAX (075)344-2701番  
振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344



ホーオーが目印！

### 六代目 (株)ぬし与仏壇店

桑名本店・四日市店・蟹江店・桑名メモリアルパーク

# ご縁の力

花園大学文学部教授 佐々木

閑



この世にはいろいろな「真理」があります。1+1=2 というのも真理なら、「地球は太陽のまわりを回っている」というのも真理。「他人に迷惑をかけない生き方は正しい生き方である」というのも真理ですし、「嘘をつくことは悪いことだ」というのも真理です。私たちは、こういった様々な真理に取り巻かれ、それを信じ、頼りにして生きています。もし1+1が2でないとする、世の中の経済も科学も全部崩れてしまいますし、「嘘をついてもよい」ということになれば、日々の暮らしは、腹のさぐりあいばかりの殺伐としたものになるでしょう。真理というのは、単に「正しい知識」ということではなく、「私たちが生きる指針にするだけの信頼性を持つ事実」のことを言うのです。

ニュートンやアインシュタインは、宇宙のありさまを正しく理解するための真理を探し、見事な科学法則を発見

しました。現代の科学技術はすべて、そういった科学法則を信頼することによって成り立っています。それに対して、外側にある宇宙ではなく、人の内側、人の心の中にある真理を探究したのが、他ならぬ、仏教の創始者、お釈迦様です。お釈迦様は深い思索の結果、「この世で人が生きるといふことは、絶対的に苦しみである（一切皆苦）」という真理に気づき、そのうえで、「そういった苦しみの世にも、真の安楽を手に入れる道は間違いないとある」といふ、一層深い真理を見つけた人です。そしてその道を、人々に説き広めました。それが仏教です。「真理を追い求めた」といふ点で、お釈迦様と、アインシュタインのような科学者たちは、実は同じ世界の人のなです。

お釈迦様は、この世のありさまを様々な言い方で表しておられますが、中でも一番重要な法則が「縁起」です。縁起とは、「縁によって起こる」、

すなわち、「この世のあらゆる現象はすべて縁、つまり原因によって起こる」という真理です。もともと分かりやすく言いますと、「神様のような絶対者がいて、それが自分の思いどおりにこの世を動かしているのではない。この世の中は、原因から結果が生じ、それがまた原因となつて次の結果が生じる、という原因と結果の連鎖関係によって粛々と進んでいる」、これが縁起の見方です。日本人なら「ご縁」と言った方がピンとくるでしょう。

ではその、縁起という法則は、私たちを不幸にするのでしょうか、それとも幸せを与えてくれるのでしょうか。お釈迦様はこうおっしゃいます。「私たちが気づいていようがまいが、この世は縁起で動いている。もしそれに気づかず、ぼんやりしたまま縁起に流されていくなら、その人は不幸になる。しかし、縁起の存在に気づき、その意味を理解しながら生きていく人は、真の安楽を見出すことができる。」

これを、私流に説明してみよう。この世が原因と結果の因果関係で動いていると

いうことを正しく認識できる人は、自分のまわりで起こるすべての事が、単なる偶然なものではなく、はっきりした因果の糸で結ばれていることに気がつきます。その結果、人生の中の様々な出来事や、いろいろな人との出会いのひとつひとつが、自分という存在となんらかのかたちで繋がっていて、意味も無く偶然に起こってきたことなどにもなっていくことを理解します。私のまわりのすべてのものが、なにかの形で意味を持つっていると実感できるようになるのです。

例えば、野辺に咲く一輪の花を見ても、「今ここに、私と花が出会っているのは、ご縁のおかげだ」と思うようになります。人生の大切な場面で失敗したり、不幸な目にあつても、「こんなつらい出来事にも、必ずなにか意味がある。これだから、起こるべくして起こってきたことなのだ」と考えます。人生の一番大切なことでも大切なものに思えてくるのです。

そしてこのように考えることができれば、日々を漫然と過ごす人には分からない、「生きていくことの不思議さ。

今ここにこうしていること、有り難さ」が、理屈ではなく、体感としてわかってくるので

す。お釈迦様の発見された多くの真理の中でも縁起は別格です。そこにこそ、苦しい生活を安穩な人生へと転換する鍵があります。つらいことがあれば、「これもきつとなにかのご縁」と思つて勇気を持ち、素敵な出会いがあれば、「ああ、有り難いご縁のおかげ」と感謝する。お釈迦様の教えは、そんな生き方を、私たちに与えて下さるのです。

無名会同人編  
**仏と仏56**  
 本体390円＋税

龍谷大学伝道部編  
**恒河** (GANZISU)  
 新たな始まり  
 大遠忌を機縁として  
 本体2400円＋税

浅井成海編  
**法然と親鸞**  
 —その教義の継承と展開—  
 本体6000円＋税

600 8342  
 京都市下京区花屋町西洞院西入  
**永田文昌堂**  
 電話 075・3711・6651  
 FAX 075・3511・9031  
 振替 010200・4・9336

七高僧シリーズ⑧

# 道綽禪師(下)

親鸞聖人は『浄土高僧和讃』道綽禪師の初首に  
本師道綽禪師は  
聖道万行さしおきて  
唯有浄土一門を  
通入すべきみちととく  
と賛嘆されています。



玄中寺の三祖堂には曇鸞大師、道綽禪師、善導和尚の御影がまつられている

今は、仏法の教えこそあるものの、修行をしても誰も仏となれない末法の時代であると実感された道綽禪師は、善

師より受け継がれた教えでした。それはひとえに曇鸞大師より受け継がれた教えでした。随の時代となつた六〇九年、曇鸞大師がかつて住した玄中寺にたまたま立ち寄つた八四歳の道綽禪師は、曇鸞大師の碑を目にします。碑文には、曇鸞大師が不老長生の教えである『仙経』を焼きすて、生死そのものをこえる浄土の教えに帰したことが書かれてあります。道綽禪師

はそれを読み強い衝撃を受けました。「曇鸞大師ほどのお方が、ご自身の智慧や修行の功を頼りとせず、如来の本願におまかせになつた。私のような者がわずかな知識や見識を誇つてどうなるうか。すでに釈尊が入滅されて一五〇〇年余りたつた末法の今日、いかにして正しい悟りを完成させる修行ができるのであろうか。わたしも聖道自力の道を投げすてて、浄土他力の教えに帰依したい。曇鸞大師よ、わたしを弟子として迎え入れたまえ」

道綽禪師はそう思い念じて、ただちに玄中寺に移り住み、曇鸞大師の『往生論註』を導きの書としてお念仏の生活に入られました。道綽禪師は主著である『安楽集』に「前に生れんものは後を導き、後に生れん者は前を訪え、連続無窮にして、願わくは休止せざらしめんと欲す。無辺の生死海を尽さんがためのゆえなり」と述べられました。この意味

「前に浄土に生まれて悟りを開く者は、後に浄土に生まれて悟りを開く者を導き、後に浄土に生まれて悟りを開く者は、前に浄土に生まれて悟りを開く者を訪ねて、教えを聞きなさい。このことが果てしなく繰り返され途切れることのないことを私は願います。数限りない迷い苦しみの世界にいる者が、残らず浄土に生まれ、迷い苦しみを離れた悟りを開いてもらいたい」ということでもあります。すなわち皆が浄土に生まれ、本当に迷い苦しみを離れた仏になることを願われたのが道綽禪師でありました。

親鸞聖人は道綽禪師のご文を『教行証文類』「化身土巻」の末尾近くに引かれています。皆が浄土に生まれ迷い苦しみを離れた仏になることを願われたのは道綽禪師と全く同じおこころであつたのです。(第三部会)



世の中安穏なれ 仏法ひろまれ

社寺建造物彩色、障壁画、仏画、絵伝、頂相画、天井画などの制作と修復・復元承ります。その他石工、木地、漆、箔押、鋳金具など、ご相談下さい。

ものづくりの観点から、あらゆる職種の本物の職人による法物制作のお手伝いをします。

絵所  
〒514-0114 三重県津市一身田町2819  
TEL:059-232-4171 FAX:059-232-1414  
(本山宗務院内 絵所)

絵所頭 安川如風

京仏壇京仏具・ご本堂内装  
お仏具ご修復・お納骨壇

高田本山御用達  
京仏具 小堀

http://www.kobori.co.jp/  
本店/京都市下京区烏丸通正面の上 ☎(075)341-4121(代)  
東京店・練馬店・福岡店・札幌店・小堀京仏具工房

無料進呈! お役に立てて下さい

◆成功談と失敗談に学ぶ 新築・改築のノウハウ「100のヒント」  
お申し込みはこちらから ☎(本店)0120-27-9595 (受付時間9:00~18:00)



一身田の医者、三間春庵の子に小松という少年がいました。当時まだ十六歳でしたが、子供心にも三尊さまのご開帳をありがたく感じて、毎日三回の参詣を欠かしませんでした。

閏九月十九日の夕刻のこと、自宅の裏に出てみると、ちょうど夕日が沈もうとして、山際があざやかに輝いています。何の気もなく見ていると、その夕日の下に五色の雲がつぎとぎと集って、光の輪のなかに三尊さまのお姿がくつきりと浮かび出ているではありませんか。

「なんと尊いことだろう。このお姿をしっかりと見覚えて、あとで絵に描いてみよう。」と思って、しばらく一心に見つめて、輝く雲の形ま

ですっかり記憶にとどめました。そして、こういうありがたいお姿を、自分ひとりで見るのはもったいないと、家かけ入って人々を呼びましたが、お姿はようやく薄れて、ある人は光る雲だけを見、ある人はかすかに三尊さまのお姿を拝むことができませんでした。

小松少年が、のちにこのすばらしいお姿を絵にかき写したことは言うまでもありません。

『三尊さまむかしばなし』より掲載



### 御開扉中の尊前臨時読経について

本山における3日から11日までの御開扉中一光三尊佛尊前での臨時読経を行います。時間帯は次の通りです。

#### 臨時読経時間

- 4月4日～5日  
午前9時の1回
- 6日～8日  
午前9時からと午後1時からの2回
- 9日～10日  
午前10時半からと午後1時からの2回
- 11日  
午前10時半からの1回

#### 申し込み要領

法会期間中、総合案内所および御影堂内にて受付を行います。所定の申込書に法名をご記入下さい。なお、冥加金20,000円以上でお願いいたします。

問い合わせ先 一光三尊佛御開扉事務所  
TEL 059-232-4177 (直通)

三重県史跡名勝「安楽庵」にて  
宗旦古流呈茶

一光三尊佛御開扉慶讃法会  
平成二十六年四月三日(木)～五日(土)  
親鸞聖人降誕会  
平成二十六年五月二十二日(水)  
午前十時～午後三時

呈茶券  
500円

寺院名

みんなできてください 参加無料 当日受付 (宗務院)

**写生大会**  
3月22日～4月6日  
10:00～15:00  
高田本山の風景を描いてみませんか? 受付にて画用紙をお渡しします。優秀作品は花まつりにて表彰します。

**花まつり**  
4月20日(日)  
10:00～12:00  
お釈迦さまにささげる一輪のお花をお持ちください。甘茶をそそぎ、ぞうさんと一緒に寺内町を歩きます。



お問い合わせ 宗務院教学課  
☎059-232-4171 (代表)

真宗高田派本山 専修寺  
三重県津市一身田町2819 TEL 059-232-4171

<http://www.senjuji.or.jp/>

高田本山  検索